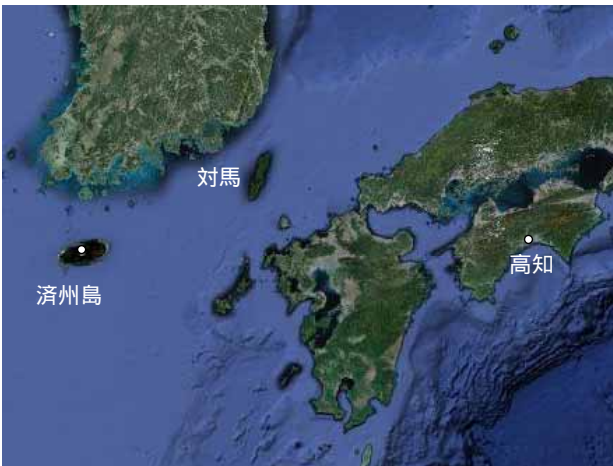


# 「濟州島」還暦記念家族旅行

右城 猛

## まえがき

5月3日～5日の日程でタビックスジャパンが「イースタージェット航空で行く世界遺産の美しい濟州島3日間」という高知龍馬空港からチャーター便で行くツアーを募集していた。これを利用して、私の還暦記念家族旅行をすることにした。家族全員が一緒の旅行は、2008年の正月に北陸に行っていて以来である。海外は和恵が大学四年生であった2004年のタイ旅行以来となる。



2010 Google 画像

## 旅行の日程

1日目は高知から濟州島へ。2日目は島内の世界文化遺産等の観光、3日目は市内観光して夕方高知に帰るといふ2泊3日の旅。

月日	日程
1日目 (5月3日) 月	高知龍馬空港へ 14:40 集合 高知龍馬空港 16:30 発 濟州國際空港着 17:30 濟州島グランドホテル泊
2日目 (5月4日) 火	濟州島内の世界文化遺産等の観光 トケビ(お化け)道路, 万丈窟, 城山日出峰, 城邑民俗村, サングムプリ, 葉泉寺, NANTA 垢すり(娘たちのみ) 濟州島グランドホテル泊
3日目 (5月5日) 水	濟州島市内観光 龍頭岩, 三姓穴, 濟州島自然史博物館 濟州國際空港発 16:10 高知龍馬空港着 17:30



濟州島観光地図

## 濟州島とは

濟州島(さいしゅうとう)は、チェジュ島あるいは韓国語でチェジユドと呼ばれる火山島で、人口は56万人、面積は香川県とほぼ同じ広さである。

13世紀末までは耽羅(たんら)国という独立国であったが、百濟の時代に朝鮮半島に併合された。1948年から50年の3年間に約8万人の島民が南朝鮮に虐殺されたという場所である。この島にルーツを持つ在日韓国人は20万人以上で、多くは大阪・生野区に住んでいる。濟州島民は朝鮮半島本土と違い、性格は温厚で生活様式が日本に近いと言われている。

濟州島が近代化されたのは、1975年に火力発電所ができてからである。全島にボーリングされて水道が張り巡らされ、農地の灌漑も生活用水もすべて水道水でまかなわれるようになった。

韓国で一番貧しかった濟州島を経済的に発展させるため、2006年7月に特別自治道に制定された。道は韓国自治体の単位で、北海道と同じような意味を持つ。

故・司馬遼太郎は、彼の著書「耽羅紀行 街道をゆく28」で、若い頃に行ってみたいという念願の地の一つが濟州島であったと述べている。

高知龍馬空港から済州島へ

高知龍馬空港の特設デスクで出国審査を受けて、イースター航空 ZE2042 便に搭乗する。イースター航空は韓国の格安航空会社。ジェット機の機種は B737。土佐電トラベル、阪急交通社、高知新聞観光、タビックスジャパンの4社が集めた旅行客で150の全席が埋まっていた。

不景気でもチャーター便の人気は高い。少々割高でも関西空港や成田空港からの出発に比べて体が楽で便利なチャーター便がよい。

高知龍馬空港の出発予定時刻は予定より25分遅れの16時35分。チェジュ国際空港には17時45分に到着する。



ガラス越しに見える Eastar Jet と書かれたチャーター便に乗ってこれから済州島観光に出発。



入国審査を終え、預けた荷物を受け取って、貸し切りバスが待っているバスターミナルへ。

チェジュ国際空港が広大で、ターミナルビルが立派なものには驚いた。トイレの壁面に液晶テレビがはめ込まれており、テレビを見ながら小便ができるようになっていた。日本の空港ではまだ見たことがない。

バスで夕食のレストランに向かう途中、ガイドが両替をしてくれた。レートは1円が115ウォン。



済州島の最初の食事は、牛のカルビの炭火焼き。肉は黒ずんだ茶色をしており、新鮮な感じはしない。肉は少し腐り気味が美味しいのかも知れない。

焼いた肉に味噌をのせ、サンチュ(チシャ菜)に包んで食べると美味しい。日本の牛肉のように脂肪が多くなってあっさりしているのでたくさん食べても満腹感を覚えない。糖尿病であることを忘れてつい食べ過ぎてしまった。

高知龍馬空港の出国口に、『韓国からの牛、豚などの肉類やその加工品で口蹄疫が発生します』と書かれたチラシが貼られていたのを思い出したが後の祭りである。



グランドホテルにチェックインした後、ホテル近くにある大型スーパーマーケットのイ・マートでショッピングをする。

イ・マートのトイレは水洗であるが、便器の横に使用済みのトイレットペーパーを入れる容器が置かれていた。下水道が整備されていないのだろうと思って、翌日ガイドのキム(金蘭珠)さんに質問すると、トイレットペーパーの質が悪くて水に溶けないためという回答であった。

この説明に納得できなかったので、帰国後にネットで調べたところ、済州島は水洗トイレ導入時に污水配管の太さが異常に細く、紙を流せば詰まってしまうという記事が見つかった。この説が正しいように思う。

#### お化け道路(トケビ道路)

大型バスで7時35分にホテルを出発。バスガイドは3日間ともキムさん。

最初の観光地は、お化け道路。道路の傾斜が下りから上りに変化したところでバスを止めてニュートラルの状態にすると、不思議なことにバスは坂の上に向けて自走する。上り坂に見えるのは目の錯覚。

後方に高い山がある。

急な下り坂から緩い下り坂に道路勾配が変化しており、その勾配差が大きい。

並木が傾斜して植えられている。

という3つの条件が揃って初めて目の錯覚が起こるということであった。



写真奥は上り坂。手前は目の錯覚で下りに見える。



#### トルハルバン(石じいさん)

済州島には至る所にトルハルバンと呼ばれる守り神が置かれている。ハングル語でトルは石。ハルバンはチェジュ島の方言で「おじいさん」。ハングルの「ハラボジ」が訛ったもの。

済州島のシンボルのトルハルバンは、どこに行っても土産用の置物として売られていた。

#### 万丈窟(まんじょうくつ)

済州島は漢拏山(はんらさん)の噴火で熔岩が噴出してできた桜島のような島である。地中には熔岩洞窟が多い。代表的なものに万丈窟、挾才窟、双龍窟がある。

私たちが観光した洞窟は、ユネスコの世界自然遺産に登録されている万丈窟。延長は 7.4km。その内の 1km が公開されている。



万丈窟の入口に向かう途中で、歩道を横切る蛇に出会う。頭が三角形をしている。マムシである。



階段を降りて万丈窟の中に入る



洞窟の壁面に見られる熔岩流線。



カメ岩と呼ばれる熔岩漂石。洞窟内を流れる熔岩に天井から岩石が落ち、流されたもの。周りに熔岩が付着して亀の形になった。



照明が足下を照らしているが、照度が極端に制限されていて暗い。暗さに目がなかなか慣れない。



光量不足でカメラのシャッターも降りない。足下は暗いのに加えて凹凸があり、凹部に水が貯まっているので非常に歩きにくい。

洞窟の中は暗すぎて何も見えないと文句を言う観光客が多いようである。



溶岩柱。洞窟の天井が崩れ、そこに炭酸カルシウムを含んだ地下水が流れて石化したもの。

洞窟は、1km 先までは進めるようであるが、溶岩柱がある 600m 地点で引き返す。



洞窟を出た所の公園に設置されている溶岩のオブジェ



登山道の途中に面白い形をした奇岩が露出している。

### 城山日出峰（ソンスンイルチュルボン）



ユネスコ世界自然遺産に登録されている城山日出峰。10万年前の海底噴火によってできた巨大岩山。写真の形をしているようであるが、下から眺めても分からない。



20分で頂上に到達。中学生らしい子供が大勢で登っていた。頂上には柵が立てられ、「DANGER」と書かれた標識があった。柵から下を眺めようとしたところ、係員に注意をされた。



写真奥の巨大な岩山が城山日出峰。海拔 178m の頂上まで階段が設けられている。ここでの見学時間は1時間であったので、早足で登ることにした。



眺望は、頂上よりも途中がよい。

下山に要した時間は10分であった。往復1時間かかると言われていたが、30分であった。日頃の訓練で二人とも随分と足腰が強くなっている。



娘達は下の方で観光。山登りにはまったく興味が無いようである。



足摺岬を思わせるような断崖絶壁。



城山日出峰の裾に広がる平原では、蒙古馬で乗馬を楽しむことができる。済州島にはモンゴル兵が駐屯していた時期がある。その時に持ち込まれたのが蒙古馬。13世紀の大モンゴル帝国の時代にいた馬で、現在では済州島にしか残っていないと言われている。

### 城邑民族村 ソンウブミンソクマウル

城邑民俗村には、朝鮮時代の人々の生活がそのまま保存されており、近くユネスコ世界文化遺産に登録される予定になっている。

民芸村には480戸があり、1400人が住んでおり、住民は、特別に国の税金が免除されている。

「チャングムの誓い」のロケが、この民族村で行われている。



昼食は、民芸村の中のレストランで黒豚の焼き肉。豚肉に味噌を載せ、サンチュで包んで食べる。肉と一緒にキムチを包んでも美味しい。サンチュとキムチはどの店でもおかわり自由で食べ放題。



昔の民家の入り口。門の代わりにジェンナンと呼ぶ横棒が渡されている。ジェンナンが2本のものと3本のものがある。

民俗村のガイドの説明によれば、架かっているジェンナンの数には下記の意味があるとのこと。

- 1本 家の中は子供だけ
- 2本 昼間はいないが夜には家に帰る

3本 2~3日留守にしている

なし 家の中にいるのでどうぞ入って下さい

これでは泥棒に入ってくださいと合図をしているようなものであるが、濟州島には泥棒がいなかったのである。

濟州島には「三無」という言葉がある。「乞食がなく盗人が無く、そして門が無い」という意味。

これは茅葺きの家があった時代のことで、新しい家には門があり、鍵がかけられている。

日本でも昔の田舎には、家に鍵を掛ける習慣がなかった。GDPに比例して泥棒や犯罪が増えるのは、世界共通のようである。



濟州島には「三多」という言葉もある。風と石と女性が多いという意味。

濟州島を車で走ると、石が多いのには驚かされる。高さが1m程度の石垣が、家の周りだけでなく畑の周りにも作られている。

濟州島は火山の噴火でできた島なので、30cmも掘ればどこからでも玄武岩が出てくる。出てきた石を風対策として積んでいるのである。

石垣は、石と石との間に隙間ができるように積み込まれている。濟州島は風が強いので、密に積むと風圧で転倒する。不安定そうに見えるが、風を逃がすための先人の智恵なのである。

バスガイドは、三多の1つを女性とは言わずに美人と説明していたが、これは根拠のない話ではない。濟州島はかつて流罪の地であった。流罪人は中央の官僚や知識人であったため、濟州島には秀才と美人が多いと言われているのである。



釜戸がある土間の台所。昔の日本の造りと同じ



床が板貼りで障子戸のある居間。



民俗村の女性ガイドが次に案内してくれたのは便所。黒豚の飼育所の周りを囲んだ石垣に1箇所穴が開けられている。穴は外の便所につながっていて、豚が人の排便を食べられるようになっている。豚が成長すると、それを人間が食べて排便をする。実に合理的にできている。

彼女が手にしている竹竿は、豚を追っ払うのに使うもの。男性がしゃがむと男根が垂れ下がるた

め、豚が大便と思って食べる恐れがある。

民俗村の見学は昼食後が正解であった。説明を聞いた後だと、豚肉を食べることができなかった。



麦や粟を粉末に砕くためには、巨大な石臼が使われていた。石臼を回すには、二頭の蒙古馬(濟州島の馬)に牽かせていた。

蒙古馬の骨は、骨密度が高くてカルシウムが多いので、産後の女性に飲ませると数日で元気になり、働くことができるようになるそうである。

竹で編んだ駕籠は、赤ちゃん用のバスケット。竹で編んでであるとマムシが近寄らないので、赤ちゃんを寝かせて農作業に専念できたとのこと。



生活水は、遠くから伏流水を汲んでくる必要があった。水を壺に入れて背中にしょって運ぶのは女性の仕事であったということを、実演を交えてユーモアたっぷりに説明してくれた。

この後、商品を並べた別の小屋に案内され、五味子茶、冬虫夏草、馬の骨の効能をたっぷり聞かされた。カメラを向けると撮影を禁止された。

## サングムプリ

サングムプリは、火山が噴火してできた火口。火口の面積は約 30 万  $m^2$ 、内部の底の円周は約 756m、火口の高さは約 130m。



天井に金色の鳳凰が描かれている英鳳門。なぜ鳳凰が描かれているのか聞くのを忘れていた。



英鳳門から火口が見える頂上まで急な斜面を登っていく。今日の観光地は、万丈窟、城山日出峰、そしてサングムプリと歩く所が多い。私たちには運動ができるので歓迎であるが、年配の方には大変である。



英鳳門から約 10 分でサングムプリの頂上に着く





柵の背後に噴火口が見える。



サングムプリにある広大な墓地は個人の所有地。墓は半円に小さく土が盛られ芝生で飾られている。漢語ではこのような墳丘を「青山」と呼ぶ。「人間至る処、青山有り」(じんかんいたるところ、せいざんあり)である。



あと少しで入り口の英鳳門

サングムプリから薬泉寺への道中

サングムプリから漢拏山(はんらさん)を右手に見ながらバスは北に向けて走る。そして進路を西方に変え、済州島のリゾート地であるロッテ チェジュ ホテルの中の免税店に立ち寄ってから、今日の最後の観光地である薬泉寺へと向かう。



バスガイドのキムさんは、済州島には川がないので稲作が行われていないと話していたが、川はある。しかし水が少ないか、涸れ川である。

済州島は熔岩でできている。地下には空洞が多く、降った雨は地面に浸透して伏流水になっているためである。

橋の親柱に、トルハルバンが使われている橋をあちらこちらで見かけた。済州島らしくて良い。グッドアイデアである。



済州島の年間総降雨量は 2000mm、海岸地帯でも 1500mm と多いが、のり面は岩盤が露出しているため無処理でも安定している。



蒙古馬の牧場



橋を渡って薬泉寺に入る



済州島で石積擁壁は非常に少ない。



寺院の周囲はミカン畑。



車窓から見たワールドカップ競技場。2002年に開催された日韓 W 杯では会場として使われた。



ここは、霊験あらたかな薬水をいただく場所。日本の観光客は、手水舎と勘違いして皆さん手を清めていたが、ここでは水を飲まなくてはならない。

韓国には手を清めるというしきたりはない。韓国の寺の前には川や池があって橋が架けられている。橋を渡って寺に入ると自然に体が清められることになるためである。

#### 薬泉寺 ヤクチョンサ

薬泉寺とは、「薬水が流れる寺」という意味。朝鮮時代初期の仏教建築様式寺で、高さは地上30m。単一寺院としては東洋一の規模である。

寺院の周囲はミカン畑になっている。韓国でミカン栽培をしているのは済州島だけである。

昔は「大学木」と呼ばれていた。ミカンの木を庭に1~2本を植えておけば、その収入で子供を大学まで行かせることができたそうである。



東洋最大規模の寺院の本堂。



本殿前の鐘閣には重さ 18t の梵鐘，反対側には巨大な太鼓が吊り下げられていた。



本殿に入る階段の両側には龍の彫刻がされた高欄がある。



本殿へとつながる参道には，信者の寄進による提灯が飾られていた。



本殿の中央に安置された高さ 5m の黄金の仏様

### 夕食とナンタ

薬泉寺で参拝を済ませて済州市内に帰り，レストランで海鮮トッペギを食べる。

トッペギとは韓国式土鍋のこと。ムール貝，アサリ，流れ子，シャチのような小さなエビ，上海蟹のようなカニと野菜を味噌で煮込んであった。出汁が良く出でとても美味しい。



海鮮トッペギ

食事の後は、念願のナンタを鑑賞する。以前、ソウルに行った際にナンタを見損ねたことを家内はずっと悔やんでいたのである。

ナンタとは「乱打」のこと。韓国の伝統リズムである「サムルノリ」をベースに、4人のコックが時間内に結婚披露宴の料理を作りあげる」というコメディ。食器やまな板、包丁など厨房にあるすべてのものが楽器に変わってしまう。

1997年に韓国国内で始められた公演が大成功を納め、世界的に有名になった。

済州市には2008年に専用劇場ができており、毎日20時から上演されているが、超人気で午前中にチケットが完売されているようである。

公演が始まる時間になると、会場内の350の座席は満席になった。鍛え抜かれた肉体、超スピードの包丁さばきは見事。観客を選んで舞台上げたり、会場の観客に手拍子をさせたり、観客の心理を上手く掴んだテクニックは見事である。90分の公演があっという間に終わっていた。



NANTA 専用劇場の入り口



ナンタの会場。公演が始まると撮影禁止。

#### 市内観光

最終日の5月5日は韓国も「子供の日」で休日。8時15分にホテルを出発して済州市内観光。



二日間宿泊したチェジュグランドホテル。ホテルの中にはカジノがある。道路を挟んで正面には、済州新羅(チェジュシイラ)免税店やコンビニのファミリーマートがある。



ロータリーとなっている緑地には、ジェンナンや石臼などが置かれている。

### 龍頭巖(ヨンドゥアム)

龍頭巖は、溶岩が噴出して固まった高さ 10m、長さ 30m の奇岩。

どう見ても龍には見えない。説明を聞かないと、どこが龍の頭でどこが口が分からない。



### 三姓穴(サンソンヒョル)

三姓穴は耽羅(タンラ)国を創建した高さん、良さん、夫さんの三神人が出てきた穴のこと。



三姓穴がある場所は、広い公園になっている。



三姓穴のある公園に入る正門



石柱で円形に囲まれた内側に、三神人が出てきたと言われる直径 1m、深さ 0.3m の穴が 3 個あるはずであるが確認することができなかった。

三姓穴の周囲にある楠の木に登って上から見れば確認できるのかも知れない。



三姓穴を説明した標識



香を焚いて三神人に祈願



三姓穴を見学した後、写真の建物の中でアニメ映画を観る。三神人に関する言い伝えを日本語でとても分かり易く説明していた。

濟州島で高，良，夫の姓を持つ三姓人の末裔は全体の25%。75%のは金や李などの姓を持つ流罪人の末裔で，島外から移住してきた人達である。



公園の入り口にあるトルハルパン

濟州民俗自然史博物館

濟州民俗自然史博物館は三姓穴の約100m東にある。濟州島の生成から歴史，民俗，風習に関する貴重な資料をはじめ，島の地質，自然環境資料が一目でわかるように展示されている。



三神人を祀った神社



博物館の入り口



博物館の前の巨大トルハルバン



博物館のロビーにある記念撮影をする場所。城山日出峰が見える菜の花畑という設定。

博物館には、昔の農機具やはた織りなど貴重な資料が展示されている。子供の頃に見た物と同じで、とても懐かしく感じた。技術や文化が朝鮮半島から日本に伝わってきたことがよくわかる。

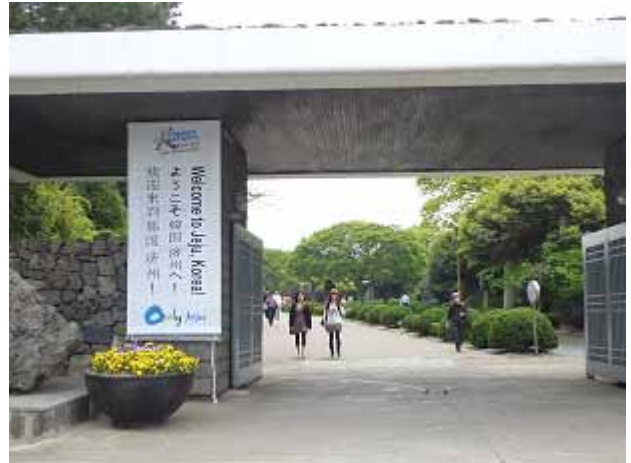
写真撮影が禁止であるのと、見学時間はわずか40分と少なかったのが残念。



藁縄を三人がかりで絞っている様子を蠅人形

で再現している。これを見て私の子供の頃を思い出した。足踏み式製縄機でわら縄を絞るのが、学校の休日に私に与えられた仕事であった。

足踏み式製縄機は、1905年(明治38年)に佐賀県の宮崎林三郎氏によって開発されたものであるが、縄を絞る原理は展示されているものと同じである。機械化した日本の技術力はすごいが、朝鮮から縄を絞る原理が伝達していなければ製縄機は開発されていなかっただろう。



済州民俗自然史博物館に入る正門



野外に展示されている済州島の火山石

### ショッピング

海外ツアーの楽しみには、免税店などでのショッピングもあるが、今回のツアーにはショッピングが多かった。初日はさすがになかったものの、二日目は韓国記念品百貨店、ロッテ免税店、革製品専門店、三日目には翡翠(ひすい)細工の専門店、新羅免税店、キムチ専門店に連れて行かれた。観光は走り走りであったのに、ショッピングには3時間以上も費やした。

旅行会社の事情によるものと思われるが、ここまでショッピングが多いと苦痛を感じる。



買いたい物がないので店の外で時間をつぶす。

### 濟州島から高知へ



濟州島の最後の食事は、韓国の伝統的な料理である石焼きビビンバ。



待合室で搭乗を待つ絹枝と怜佳

### あとがき

今年の春は、気温が 20 度を越えたと思えば急に寒くなって雪が降るなど天候不順であった。雨も多かった。そんな中であったが、今回の旅行は



機内から眺めた濟州市

天候に恵まれ、家族揃った思い出に残る楽しい旅になった。

濟州島がこんなに近い所にあるとは思ってもしなかった。チャーター便だと高知からわずか 1 時間の距離である。

濟州島は香川県くらいの小さい島であるが、見所はたくさんある。今回の旅では、濟州島のほんの一部を垣間見たに過ぎない。時間をかけて、ゆっくりと観光したい所である。

この旅行記を書くに当たっては、現地ガイドの金蘭珠さんの説明、司馬遼太郎著の「耽羅紀行」(朝日文芸文庫、1990)、インターネットの濟州島に関するサイトを参考にした。

(2010 年 5 月 8 日 記)



わが家の床間の前で還暦祝いの記念撮影。赤い「ちゃんちゃんこ」「頭巾」「座布団」は、朋男君と和恵からのプレゼント。

(2010 年 5 月 3 日撮影)